

平成 28 年度 安全保障国際シンポジウム

北朝鮮をめぐる
将来の安全保障環境

防衛省 防衛研究所

防衛省防衛研究所

編集・発行 防衛省防衛研究所

©2017 The National Institute for Defense Studies and the individual authors

〒162-8808 東京都新宿区市谷本村町5-1

Tel: 03-3268-3111

www.nids.go.jp

防衛研究所は、防衛省の研究・教育機関であり、防衛・安全保障に関する調査研究、幹部自衛官および事務系幹部職員の教育を行っています。

本書は、防衛研究所が開催した平成28年度安全保障国際シンポジウム（於：東京、2016年7月25日）の報告書です。本書で表明されている見解は、各執筆者個人のものであり、必ずしも執筆者の所属する組織や政府の見解を代表するものではありません。

本書の全部又は一部について、形態や手段を問わず、複製、情報検索システムによる保管、転送を行う場合は、出版者からの書面での許可が必要です。

ISBN 978-4-86482-053-0

翻訳・DTP制作・印刷 (株)アーバン・コネクションズ

まえがき

近年、朝鮮半島をめぐる安全保障情勢が一段と厳しさを増してきている。北朝鮮の金正恩体制は2013年以来核と経済を同時に発展させるという「並進路線」を推進しており、本年5月に36年ぶりに開催された第7回労働党大会でも同路線が堅持された。この路線に基づき、本年1月には「水爆実験」と称する4度目の核実験を、2月には人工衛星と称する長距離弾道ミサイル打上げをそれぞれ実施したほか、その後も短距離・中距離ミサイルを複数発射し、SLBM 発射実験を行うなど、北朝鮮の核・ミサイル能力の向上は周辺国・関係国の深刻な脅威となっている。さらに、北朝鮮の韓国に対するサイバー攻撃も激しさを増しており、今後一層深刻な脅威となることが予想される。他方、北朝鮮経済は金正恩体制下で一定程度改善してきたとの見方がある一方で、今後については経済制裁の効果をめぐり様々な可能性が考えられ、不透明な状況にあるといえる。

このように不透明な朝鮮半島情勢を踏まえ、本シンポジウムは、北朝鮮をめぐる将来の安全保障環境について内外の専門家の間で議論を深めるとともに、これを広く一般に提供することを目的とする。

防衛研究所
研究幹事
坂口 賀朗

| | | |
|-----|------------------------|-----|
| 第6章 | 北朝鮮の金正恩体制の安全保障戦略：日本の視点 | |
| | 阿久津 博康 | 101 |

第3部

北朝鮮の将来と関係国の対応

| | | |
|------|------------------------------|-----|
| 第7章 | 金正恩体制と朝鮮半島を取り巻く安全保障環境の将来 | |
| | スコット・スナイダー | 117 |
| 第8章 | 北朝鮮に対する将来予測—危難の事態に備えて | |
| | チェ・ガン | 139 |
| 第9章 | 中国の北朝鮮政策—「安全保障」と「経済関与」のジレンマ— | |
| | 青山 瑠妙 | 155 |
| 第10章 | ロシアの北朝鮮政策—現状と展望 | |
| | 斎藤 元秀 | 173 |
| | 執筆者紹介 | 199 |
| | 「安全保障国際シンポジウム」プログラム | 204 |

